

3 研究のまとめ

(1) 成果

- 中学校美術科で育成を目指す資質・能力や「造形的な見方・考え方」, 「造形的な視点」の考え方を基に, 生きて働く「知識」の捉え方や, 生きて働く「知識」の段階的な習得のイメージについて整理することができました。
- 中学校美術科における生きて働く「知識」の習得を目指して, 鑑賞の活動で習得した「知識」を表現の活動に生かす具体的な手立てを設定しました。鑑賞の活動やアイデアスケッチの活動で使用するワークシートに〔共通事項〕の内容を整理した項目を示し, 実感を伴った「知識」の習得が促されるようなワークシートを作成することができました。
- 〔共通事項〕の内容を具体的に提示して鑑賞の活動を行うことは, 生徒が新たな鑑賞の視点をもつことに有効だということが分かりました。また, 鑑賞の活動で基にした〔共通事項〕の内容をアイデアスケッチの活動でも同様に意識できるようにすれば, 実感を伴った「知識」の習得や, 表現する喜び, 鑑賞する喜びにつながるということが分かりました。

(2) 課題

- 本研究では, 客観的な事実として見ることが比較的容易な項目と, 複合的な見方が含まれる項目で記述に大きな差が見られました。生きて働く「知識」の習得のためには, 生徒の実態把握を行った上で育成が不十分な点を的確に判断し, 〔共通事項〕の指導事項を焦点化した具体的な手立てを設定していくことが必要だと考えます。
- 立体的な表現が終わった後の生徒の振り返りを十分に行わせることができず, 鑑賞の活動での学びが意識的に表現に反映されたかどうかの分析が不十分でした。目指す姿の具体が, 一連の活動の中でつながりをもっていたかどうか検証できるようにするために手立てを改善することが必要だと考えます。
- 生きて働く「知識」の習得のためには, 今後も活動の中で生徒が2領域を往還できるようにし, 実感を伴いながら「知識」を習得する場面や, 表現する喜び, 鑑賞する喜びを感じられる場面を重ねていけるような手立ての設定が必要だと考えます。